

沖縄県平和祈念資料館及び八重山平和祈念館
展示更新基本計画
(素案)

2025（令和7）年6月30日

沖縄県

目 次

第1章 沖縄県平和祈念資料館（本館）	1
1 常設展示室（2階）	1
（1） 展示更新の全体構成について	1
（2） 展示展開の方向性	3
（3） 展示でとりあげる項目	7
2 子ども・プロセス展示室（情報ライブラリー含む）（1階）	16
（1） 全体構成について	16
（2） 展示でとりあげる項目	19
第2章 八重山平和祈念館（分館）	20
1 展示更新の全体構成について	20
（1） 展示更新の方向性	20
（2） 展示の全体構成について	22
（3） 各展示コーナーのねらい	23
（4） 今後の主な検討課題	24
（5） 展示でとりあげる項目	24
第3章 全館に共通する展示更新に関する事項	27
1 解説ツールに係る更新	27
（1） 更新のねらいと方向性	27
2 展示ケースの更新	31
（1） 更新のねらいと方向性	31
3 今後の主な検討課題	31

第 1 章 沖縄県平和祈念資料館（本館）

1 常設展示室（2 階）

（1）展示更新の全体構成について

①展示構成について

基本構想に基づき「設立理念」と「展示むすびのことば」を継承し、展示室の構成と各室のテーマは、原則として現展示室を引き継ぎ、戦争体験者なき時代を見据え、非体験者が沖縄戦や基地問題等を自分に引き寄せて考えることができる展示構成とする。

②ニュートラルゾーンについて

第 1 展示室と第 2 展示室の間、第 2 展示室と第 3 展示室の間、第 3 展示室と第 4 展示室の間にそれぞれ設けられているニュートラルゾーンは、新たに取り上げる展示内容が増加することから隣接する展示室に統合することも検討する。

③各展示室のタイトルについて

各展示室のタイトルは、設計段階の検討により展示項目が固まった時点で必要に応じで見直しを行うものとする。

第1展示室 沖縄戦への道

第2展示室 鉄の暴風

第3展示室 地獄の戦場

第4展示室 証言

第5展示室 太平洋の要石

・琉球併合から沖縄戦に至るまでの流れを辿り、なぜ、沖縄戦が起きたのかを考えてもらう。

・富国強兵策により軍備を拡張し、帝国主義の道を歩んでいった日本に沖縄がどのように組み込まれていったのか、また、戦争が長期化し拡大するなかで沖縄の戦時体制がどのように進んでいったのかを伝える。

・米軍上陸以降、およそ3か月に及ぶ沖縄戦の経緯を辿りながら、米軍の圧倒的な物量作戦による「鉄の暴風」が沖縄を一変させ、軍民合わせて20数万人もの死者を出した沖縄戦の実相を映像で伝える。

・日本軍による住民虐殺や強制された「集団自決」「強制集団死」、収容所／収容地区での犠牲をはじめ沖縄戦のもとで、沖縄の人々が死に追いやられた数々の“地獄”の実相を伝える。

・県内の地域ごとの戦争のコーナーを設け、ひとくくりにできない沖縄戦の実相を知り、考えてもらう展示を検討する。

・沖縄戦において、戦火から身を守る場所であると同時に多くの住民が犠牲になった場所でもあるガマに焦点をあて、ガマで起こった象徴的な出来事を通じて、沖縄戦がどのような戦争であったのかを考えるきっかけを提供する。

・戦場を逃げ惑い、追い詰められ、命を落とした人々の姿を記録に基づき表現し、戦争の悲惨さ、恐ろしさを伝える。

・沖縄戦の実相がわかる物的資料が少ない中、想像を絶する極限状態の沖縄戦の実相を知る一級の資料が証言である。本展示室は、その貴重な証言を通じて、来館者が体験者と向き合うことができる場とすることをねらいとする。

・沖縄の戦後は収容所から始まったこと、その状況について伝える。

・十五年戦争が終結し沖縄戦が終わっても、沖縄は27年に及ぶ米国統治のもと世界の戦場と隣り合わせの生活を強いられ、冷戦構造の中、基地の島として強化されていった。そうした中で、住民は、土地を奪われ、抑圧を受け、女性への性暴力等、基地から派生する事件・事故の危険にさらされ続けてきたことを伝える。

・そうした困難な状況の中でも、平和や自治を求めて立ち上がった人々の姿や、沖縄の文化を復興させる動きがあったことにもふれる。

・日本復帰後も、基地は再編強化され、基地被害は後を絶たず、現在も国土面積の約0.6%しかない沖縄に、全国の米軍専用施設の約70%が集中したままであることなど、今もなお基地の島であり続ける沖縄の状況や基地問題は沖縄だけの問題ではなく、日本全体の問題であることを伝える。

（２）展示展開の方向性

①第１展示室：沖縄戦への道

ア 展示のねらい

- ・琉球併合から沖縄戦に至るまでの流れを辿り、なぜ、沖縄戦が起きたのかを考えてもらう。
- ・富国強兵策により軍備を拡張し、帝国主義の道を歩んでいった日本に沖縄がどのように組み込まれていったのか、また、戦争が長期化し拡大するなかで沖縄の戦時体制がどのように進んでいったのかを伝える。

イ 展示更新の留意点

- ・本館の展示全体への興味・関心を引き出し、他人事ではなく、自分に引き寄せて考えるきっかけを提供するために、戦時体制下に生きる沖縄の人々の姿に触れることができる導入展示を新設する。
- ・沖縄の女性史・近代史研究の進展をはじめ、2000（平成12）年の開館以降蓄積された研究成果を踏まえ、展示内容の見直しを図る。
- ・近代日本の中で、同化されていく沖縄の人々の姿とともに、沖縄のあり方を問い、模索した沖縄の人々の姿も取り上げ、その経験が今に引き継がれていることへの気づきを醸成する視点も加味する。
- ・来館者の興味・関心を引き出し、自ら考えるきっかけを提供するために、導入展示に加えて、随所に“問いかける展示”の導入を検討する。

ウ 今後の主な検討課題

- ・来館者の興味・関心を促す上で、導入展示として具体的にどのような内容を盛り込むかを検討する。
- ・導入展示を新設するために、第１展示室のレイアウトを見直すことを検討する。
- ・体験者が描いた「沖縄戦の絵」の効果的活用方法を検討する。（第２－第４展示室に共通）。

②第２展示室：鉄の暴風

ア 展示のねらい

- ・米軍上陸以降、およそ３か月に及ぶ沖縄戦の経緯を辿りながら、米軍の圧倒的な物量作戦による「鉄の暴風」が沖縄を一変させ、軍民合わせて20数万人もの死者を出した沖縄戦の実相を映像で伝える。
- ・日本軍による住民虐殺や強制された「集団自決」「強制集団死」、収容所／収容地区での犠牲をはじめ沖縄戦のもとで、沖縄の人々が死に追いやられた数々の“地獄”の実相を伝える。
- ・県内の地域ごとの戦争のコーナーを設け、ひとくくりにできない沖縄戦の実相を知り、考えてもらう展示を検討する。

イ 展示更新の留意点

- ・現在、作動していない沖縄戦の経緯を伝える映像演出について、配置・内容を含めて再検討する。
- ・映像を集中して鑑賞できるようにするために、映像鑑賞と展示観覧の動線や展示室のレイアウトを見直す。
- ・沖縄戦下での障がい者やハンセン病患者、性暴力、心の傷など多様な視点から住民犠牲の諸相を伝えるため、展示内容を見直し、充実を図る。
- ・沖縄戦における住民の犠牲とともに、沖縄戦を生き抜いた人々にも注目し、沖縄の人々の主体的な意識と行動を取り上げる。
- ・来館者の興味・関心を引き出し、自ら考えるきっかけを提供するために、“問いかける展示”の導入を検討する。

ウ 今後の主な検討課題

- ・大型スクリーンの内容、方法、配置、座席などの見直しを検討する。
- ・来館者の感性に訴えかける展示を充実させるため、資料館の保有している戦争遺物・収蔵品等を活用することを検討する。

③第3展示室：地獄の戦場

ア 展示のねらい

- ・沖縄戦において、戦火から身を守る場所であると同時に多くの住民が犠牲になった場所でもあるガマに焦点をあて、ガマで起こった象徴的な出来事を通じて、沖縄戦がどのような戦争であったのかを考えるきっかけを提供する。
- ・戦場を逃げ惑い、追い詰められ、命を落とした人々の姿を記録に基づき表現し、戦争の悲惨さ、恐ろしさを伝える。

イ 展示更新の留意点

- ・ガマの再現模型に入る前に、沖縄及び沖縄戦においてガマとはどういうものなのかを伝え、ガマ自体への理解を促す展示を追加することを検討する。
- ・ガマの内部に再現されているシーンについて、現状では何を伝えたいのか分かりにくいとの指摘があることから、各シーンが意味する内容を補完する演出・説明・展示を検討する。
- ・来館者が、沖縄戦が沖縄だけの問題ではなく、日本全体で考える問題と理解してもらうような展示を導入する。

ウ 今後の主な検討課題

- ・ガマの再現模型を活かすために有効な説明文や音声等の導入を検討する。
- ・写真や展示物について、現在の状況を活かしながら入替・追加を検討する。
- ・平和の礎の刻銘者データを活用した展示を検討する。
- ・来館者が、沖縄戦が沖縄だけの問題ではなく、日本全体の問題であることを考えてもらうような展示を検討する。

④第4展示室：証言

ア 展示のねらい

- ・沖縄戦の実相がわかる物的資料が少ない中、想像を絶する極限状態の沖縄戦の実相を知る一級の資料が証言である。本展示室は、その貴重な証言を通じて、来館者が体験者と向き合うことができる場とすることをねらいとする。

イ 展示更新の留意点

- ・老朽化が顕著なタブレット端末について、機器変更を含め更新を検討する。
- ・紙のブック形式の証言展示と、電子媒体を活用した証言展示の双方の特徴を検証し、より適切な方法を検討する。
- ・来館者がじっくりと証言を読むことができる環境の整備を検討する。

ウ 今後の主な検討課題

- ・来館者が読みたい証言を検索しやすいように証言の分類方法を検討する。
- ・紙と電子媒体の証言展示について、特徴を活かした適切な展示方法を検討する。
- ・証言映像ブースについて、来館者が利用しやすい環境や内容の充実を検討する。
- ・来館者の目につきやすいように、証言映像の常時放映などを検討する。

⑤第5展示室：太平洋の要石

ア 展示のねらい

- ・沖縄の戦後は収容所から始まったこと、その状況について伝える。
- ・十五年戦争が終結し沖縄戦が終わっても、沖縄は27年に及ぶ米国統治のもと世界の戦場と隣り合わせの生活を強いられ、冷戦構造の中、基地の島として強化されていった。そうした中で、住民は、土地を奪われ、抑圧を受け、女性への性暴力等、基地から派生する事件・事故の危険にさらされ続けてきたことを伝える。
- ・そうした困難な状況の中でも、平和や自治を求めて立ち上がった人々の姿や、沖縄の文化を復興させる動きがあったことにもふれる。
- ・日本復帰後も、基地は再編強化され、基地被害は後を絶たず、現在も国土面積の約0.6%しかない沖縄に、全国の米軍専用施設の約70%が集中したままであることなど、今もなお基地の島であり続ける沖縄の状況や基地問題は沖縄だけの問題ではなく、日本全体の問題であることを伝える。

イ 展示更新の留意点

- ・2000（平成12）年の開館以降の主な出来事として、2004（平成16）年に起きた沖縄国際大学への大型輸送ヘリ墜落や、女性への性暴力等の米軍基地から派生する事件・事故、環境問題、今もなお残る基地の現状や近年の自衛隊の配備拡張など、沖縄県の置かれている状況について、展示内容を追加する。
- ・開館以降の歴史的事実の追加を踏まえたゾーニングの見直し・展示配置を検討する。

- ・ 米国統治下の沖縄、復帰後の沖縄がどのような状況であったのかをイメージし、自分に引き寄せて考えてもらうために、その時々の人々の姿、生活の営みを表現する展示を検討する。
- ・ 米国統治下の街の再現コーナーの展示更新にあたっては、開館以降の研究成果を踏まえつつ、再現された建物やシーンを通じて何を伝えるのかを改めて検討する。加えて、その背景を読み解くヒントを提供するために、解説機能の付加、人々の話声や軍用機の飛行音等の音響演出、当時の沖縄が米国や日本からどのように見られていたかを伝える映像展示などを加えることを検討する。
- ・ 来館者の興味・関心を引き出し、自ら考えるきっかけを提供するために、“問いかける展示”の導入を検討する。

ウ 今後の主な検討課題

- ・ 人間の尊厳を踏みにじる「構造的暴力」を表現する展示方法を検討する。
- ・ 街の再現コーナーの一部見直しによる展示スペースの確保を検討する。
- ・ 現展示の「現在の戦争と紛争」、「世界情勢」に関する展示の見直しを検討する。

（３）展示でとりあげる項目

※ここに示す展示項目等については、設計時に追加、削除、再編、組み換え等の必要性をさらに検討することとする。

第１展示室：沖縄戦への道

大項目	中項目	展示内容の概略
1. 導入展示	1 沖縄戦前夜の風景と人々の暮らし（1944 年）	①沖縄の農村に住む、ある家族を紹介する。 ②戦時体制や近づく沖縄戦による影響は、家族の生活にも及んだ。 ③「糸満売り」された少年、「辻売り」された少女、ハンセン病患者など、家族に包摂されない人々を含む。
2. 沖縄戦への道	1 日本による琉球併合から同化政策へ	①1609 年の薩摩藩による琉球侵攻、日清両属関係の琉球王国の様子 ②台湾出兵（「台湾遭害事件之墓」、牡丹社事件） ③琉球併合（琉球王国から沖縄県へ） ④日本の分島・増約案、日清戦争を経て国境画定 ⑤旧慣温存策、同化政策 ⑥教育勅語、御真影 ⑦標準語教育
	2 日清戦争・日露戦争・第一次世界大戦	①日清戦争 ②日露戦争 ③韓国併合 ④第一次世界大戦 ⑤シベリア出兵 ⑥徴兵制度・徴兵検査 ⑦第一次大戦後の戦後恐慌 ⑧ソテツ地獄 ⑨沖縄の経済、社会状況（サトウキビ生産など）
	3 十五年戦争と南進政策	①満州事変からの十五年戦争 ②日中全面戦争 ③銃後の戦争体制（千人針、奉公袋、出征） ④従軍した沖縄出身兵 ⑤沖縄防備対策 ⑥南進政策（南方の重要資源） ⑦第二次世界大戦 ⑧アジア太平洋戦争（マレー半島上陸と真珠湾攻撃）
	4 近代の沖縄と軍隊	①軍人勅諭 ②分遣隊派遣 ③陸軍教導団 ④沖縄からの徴兵（九州の部隊への入隊）

		⑤戦争への従軍（日露戦争、第一次世界大戦・日中戦争） ⑥戦死者の慰霊・顕彰 ⑦海軍施設（中城湾） ⑧臨時要塞（中城湾と船浮） ⑨軍艦の寄港と県民の歓迎 ⑩日本軍の沖縄県民観（沖縄警備隊区徴募事務概況、沖縄県の歴史的関係及人情風俗、沖縄防備対策）
5	移民と出稼ぎ	①移民の始まりと展開 ②當山久三 ③移民（南米・北米・ハワイ） ④台湾 ⑤南洋群島 ⑥東南アジア（フィリピンなど） ⑦本土出稼ぎ・留学（県人会/関西と東京） ⑧徴兵忌避と移民（本部事件） ⑨国策移民（満州、満蒙開拓団） ⑩三竈島（サンソウトウ）
6	同化と異化のはざま、沖縄の人々の模索	①人頭税廃止運動 ②自由民権運動（謝花昇） ③人類館事件 ④伊波普猷（郷土研究、沖縄学） ⑤太田朝敷 ⑥本土の社会運動への参加（労働組合） ⑦教員運動（社会科学研究会、東京と沖縄） ⑧沖縄教育労働者組合 OIL、八重山教育労働者組合 ⑨風俗改良、良妻賢母 ⑩「新しい女たち」（新しい生き方を模索する女性たち）
7	皇民化政策、沖縄と植民地・占領地	< 沖縄での皇民化政策 > ①御真影 ②教育勅語 ③奉安殿 ④学校防空指針（御真影・教育勅語）奉護のための殉職者 ⑤国定教科書（「国語」「修身」など） ⑥標準語励行、方言札 ⑦改姓改名 ⑧神社、鳥居 < 植民地・南洋群島・占領地での皇民化政策 > ⑨神社の建立 ⑩創氏改名 ⑪皇国臣民の誓詞（宮城遥拝）

		⑫植民地での日本語教育 ⑬占領地での日本語教育
8	沖縄からの移民と戦争	①南洋群島（サイパン、テニアンなど） ②移民と現地住民の犠牲 ③サイパン陥落後の軍の対民間人対策 ④フィリピン（ダバオ、パナイなど） ⑤東南アジア（インド抑留、オーストラリア抑留） ⑥北米（日系人強制収容） ⑦南米（ブラジル、勝ち組と負け組）
9	第 32 軍の沖縄配備と飛行場建設	①第 32 軍創設と配備・構成 ②飛行場建設（北飛行場、中飛行場、伊江島など） ③住民の動員 ④地上軍の増強配備（1944 年 7 月から） ⑤日本軍慰安所の設置 ⑥将兵による非行と住民の反応 ⑦陣地の構築
10	総動員体制	<総動員体制> 日本全体の総動員体制と沖縄の総動員体制 ①徴用（勤労動員） ②供出（金属、食糧、木材など） ③徴用・供出の仕組み（軍・県・市町村・字） ④軍事訓練、竹槍訓練 ⑤出征歓送式、慰問袋、千人針、帰還歓迎会、遺骨帰還・町村葬 ⑥配給制度 ⑦国防献金 ⑧マスメディア ⑨軽便鉄道爆発事件 ⑩住民の生活、暮らしの変化
11	子どもたちの戦時体制	①軍による学校接收、青空教室 ②勤労動員、陣地構築、食糧増産 ③小学生（国民学校児童）の日常の変化 ④竹槍訓練、沖縄青少年団訓練 ⑤競技の変化（戦場競技へ） ⑥子どもたちの遊びの変化
12	疎開	①疎開政策（立案の経緯、疎開の考え方） ②軍の方針 ③県の方針・関わり（知事と軍の対立、知事交代による変化） ④県外疎開（九州、台湾） ⑤学童疎開（対馬丸など） ⑥北部（やんばる）疎開（県の方針、受け入れ体制、避難民の取扱、食糧難）

		⑦宮古・八重山の県外疎開（台湾疎開、郡内の別の島への強制疎開、島内強制疎開） ⑧疎開と飢餓・マラリア（特に北部疎開、宮古・八重山） ⑨疎開先での生活（九州、台湾）
13	防諜とスパイ取締り	①社会運動の取締り ②個人の言動の取締り、監視 ③防諜 ④住民の相互監視、密告 ⑤国土隊（秘密戦に関する書類） ⑥移民帰りの監視 ⑦沖縄語禁止 ⑧久米島の日本軍と住民 ⑨日本軍による防諜取締り ⑩警察文書 ⑪軍機保護法、特高、国防保安法
14	10・10 空襲	①10.10 空襲の経過 ②米軍の作戦目的・計画 ③空襲被害（那覇、各地、船舶） ④宮古・八重山諸島への空襲（10.12-13も含め） ⑤日本政府による抗議、米国政府の対応
15	戦時船舶の犠牲	①沖縄関係戦時遭難船舶一覧 ②対馬丸、嘉義丸、湖南丸など ③連絡船、漁船など小型艦船の犠牲
16	米軍上陸前夜の沖縄、県民の戦場動員	①軍官一体の県民の戦場動員体制 ②知事諭告第2号 ③根こそぎ動員 ④防衛隊 ⑤義勇隊 ⑥伊江島の軍官民合同訓練 ⑦遊撃隊（護郷隊） ⑧女性たちの動員、救護班、炊事班等 ⑨国民抗戦必携
17	学徒の動員	①勤労働員 ②軍事訓練、竹槍訓練 ③中学生、高等女学校生らの戦場動員（軍県3者覚書） ④戦場動員と女性差別 ⑤学校ごとの動員状況と教師の対応 ⑥遊撃隊（護郷隊）への学徒の動員
18	日本軍の作戦と米軍の作戦	<日本軍の作戦> ①日本軍の装備と作戦 ②戦陣訓、各種教令 ③近衛上奏文 ④大本營の方針 ⑤第32軍の方針（作戦計画、時間稼

		ぎ、南部撤退など) ⑥住民対策 ⑦捕虜・投降禁止（民間人も対象） ⑧戦闘方法（斬り込み隊など） ⑨国土決戦教令 ⑩第32軍司令官最後の命令 ⑪航空特攻 ⑫海上特攻 ⑬地上特攻 <米軍の作戦> ⑭アイスバーグ作戦（沖縄作戦の目的） ⑮米軍の戦力・部隊 ⑯心理戦 ⑰住民対策
--	--	--

1

2

第2展示室：鉄の暴風

大項目	中項目		展示内容の概略
1. 鉄の暴風シアター	1	鉄の暴風	<大型スクリーンモニター> ①沖縄戦の戦闘経過 ②住民の戦争体験
2. 住民犠牲の諸相	1	根こそぎ戦場動員	①戦場での物資運搬、道案内、斬り込み ②捕虜になることを許さない ③投降阻止、スパイ視 ④米軍上陸下、砲爆撃の中での動員 ⑤市町村長・警察署長会議（県指示、知事訓示） ⑥知事から県民への最後の訓示 ⑦海軍根拠地隊 ⑧沖縄出身兵
	2	日本軍による住民虐殺・迫害	①住民虐殺の実相 ②なぜ日本軍は沖縄県民を虐殺したのか（地域・時期別特徴、その要因） ③スパイ視 ④壕（ガマ）追い出し、食糧強奪 ⑤民間人の投降阻止
	3	北部疎開によって生まれた犠牲	①北部疎開方針（棄民政策） ②投降阻止、スパイ視 ③警察の役割（県警察文書） ④やんばる山中の避難民の実相（食糧、住居、日々の生活） ⑤日本兵による迫害（食糧強奪、虐殺）
	4	収容所/収容地区	①米軍政策 ②食糧難（飢えとマラリア） ③米軍基地建設と住民移動（軍事優先、劣悪な収容地区） ④収容所内の避難民と日本軍 ⑤学校の開設 ⑥戦争孤児、孤児院

	5	戦争マラリア	①沖縄本島北部のマラリア ②宮古島のマラリア ③八重山諸島の戦争マラリアと残置謀者
	6	「集団自決」「強制集団死」	①「集団自決」とは何か ②場所・地域ごとの特徴 ③なぜ起きたのか ④日本政府・日本軍の民間人対策 ⑤軍から配られた手榴弾 ⑥鬼畜米英、米兵への恐怖心を煽る宣伝 ⑦性暴力への恐怖心を煽る宣伝 ⑧起きなかった場所・地域との比較
	7	障がい者	①身体障がい者の体験 ②精神障がい者の体験 ③戦争がつくりだした障がい者
	8	ハンセン病患者	①ハンセン病患者の状況 ②日本軍による強制収容 ③愛楽園 ④南静園
	9	軍隊による性暴力	①日本軍慰安所 ②日本兵による性暴力 ③米兵による性暴力
	10	心の傷	①戦闘神経症 ②戦後も続く心の傷・PTSD
	11	朝鮮人の動員と犠牲	①沖縄に動員された朝鮮人 ②軍夫 ③軍人 ④船舶の乗組員 ⑤日本軍「慰安婦」 ⑥日本軍による扱い ⑦戦没時期、場所
	12	日本軍兵士にとっての沖縄戦	①全国各地から召集されてきた日本兵 ②日本軍の戦闘方法 ③捕虜になることは許されない ④傷病兵殺害、青酸カリ処置 ⑤国土決戦教令、戦陣訓
	13	米軍兵士にとっての沖縄戦	①米軍の戦闘方法 ②米軍部隊の戦歴 ③米兵と住民 ④米兵の戦闘神経症・PTSD
	3. 地域ごとの沖縄戦	1 北部の沖縄戦	①山中の戦争 ②国頭支隊（宇土部隊） ③日本兵による住民虐殺、食糧強奪 ④飢餓・マラリア ⑤御真影奉護壕 ⑥遊撃戦（護郷隊） ⑦陸軍中野学校 ⑧伊江島の戦闘

2	中部の沖縄戦	①北部疎開と南部への避難 ②早期に米軍支配下に入った地域 ③日米両軍の激戦地 ④米軍上陸地点 ⑤進む米軍基地建設
3	南部の沖縄戦	①戦場での住民動員 ②南部撤退と多大な住民犠牲 ③軍民混在の戦場 ④日本軍の行動（住民虐殺、壕追い出し、食糧強奪、投降阻止など） ⑤知念半島の状況 ⑥一家全滅
4	本島周辺離島及び大東諸島の沖縄戦	①日本軍がいた島（慶良間諸島、久米島、津堅島など） ②日本軍がいなかった島（前島、平安座島、宮城島、久高島など） ③大東諸島 ④奄美群島
5	宮古・八重山の沖縄戦	①戦争マラリアと飢餓 ②軍命によるマラリア地帯への強制退去 ③日本軍慰安所 ④米英両軍による砲爆撃 ⑤米軍捕虜虐殺と戦犯裁判 ⑥陸軍中野学校と離島残置謀者 ⑦波照間島、忘勿石
6	命を救った人たち	①多くの命を救った人たち ②生きるように勧めた日本軍将兵 ③米軍のなかの日系兵士（通訳、沖縄からの移民）
7	沖縄戦を生き抜いた人たち	①いく人かの人物を取り上げて、沖縄戦全過程のなかでの行動を紹介
8	ガマと沖縄戦	①ガマと住民 ②生死をわけたガマ（チビチリガマとシムクガマ等） ③糸数アブチラガマの諸相 ④利用された墓（住民の避難場所、日本軍の陣地）

1
2
3

第3展示室：地獄の戦場

大項目	中項目	展示内容の概略
1. 地獄の戦場	1 避難民・日本兵	①現行のガマの再現模型に説明を追加
	2 投降ビラ・スパイ視	
	3 野戦病院・青酸カリ	
	4 作戦会議・斬り込み隊	
	5 死の彷徨	①現行の展示物、写真を活用

2. 沖縄戦とは何だったのか	1	沖縄の基地からの本土攻撃	①米軍飛行場の建設 ②航空部隊の配備・任務 ③奄美、九州などへの爆撃 ④空襲にあった疎開学童
	2	もし本土決戦が行われていたら	①米軍の本土進攻作戦計画 ②大本営の本土決戦準備 ③国民義勇戦闘隊 ④地区特設警備隊
	3	「平和の礎」から見た戦没者	①「平和の礎」のデータの活用、分析（戦没場所、時期等）
	4	戦後処理と諸問題	①遺骨収集 ②追悼、慰霊碑（塔） ③援護法 ④不発弾 ⑤戦争遺跡の保存、文化財登録 ⑥教科書検定問題 ⑦平和の礎
	5	沖縄戦のまとめ	①住民の視点で見た沖縄戦の振り返り

1

2

第4展示室：証言

大項目	中項目		展示内容の概略
1. 住民の見た沖縄戦	1	証言	①証言本（紙媒体） ②証言本（デジタル媒体） ③証言映像（常時放映等） ④多言語化の充実

3

4

第5展示室：太平洋の要石

大項目	中項目		展示内容の概略
1. 導入展示	1	①なぜ沖縄には基地が多いのだろうか ②東アジアの情勢と沖縄の位置づけ	①日本全国の基地所在地と沖縄の米軍基地及び自衛隊基地 ②朝鮮戦争出撃の島 ③ベトナム戦争出撃の島 ④今も昔も変わらない基地の島
2. アメリカ世一占領下の沖縄	1	収容所の暮らしと復興の始まり	①収容所の暮らしと食糧事情（配給・軍作業・戦果） ②マラリア・栄養失調と軍病院 ③女性への性暴力事件 ④戦後教育の始まり（青空教室からかまぼこ教室） ⑤戦争孤児と孤老 ⑥芸能・カンカラ三線 ⑦帰郷（基地建設と離散） ⑧経済復興の始まり ⑨海外・県外引揚げの諸相 ⑩県人の救援活動と米軍支援物資 ⑪沖縄文化の復興（芸能、文化財保護、博物館）

			⑫戦後メディアと言論統制
	2	恒久的基地建設と住民	①冷戦の本格化、朝鮮戦争 ②天皇メッセージ ③サンフランシスコ講和条約 ④日本での反基地・反核運動 ⑤行政組織の変遷（沖縄諮議会、沖縄民政府、群島政府） ⑥琉球列島米国民政府（USCAR）と琉球政府 ⑦海兵隊移転と在沖米軍基地、核配備 ⑧島ぐるみ闘争 ⑨基地建設と日本の高度成長 ⑩南米移民、八重山開拓
	3	復帰運動の高まり	①言論統制・渡航制限・裁判移送 ②増加する米軍関連の事件・事故 ③沖縄県祖国復帰協議会の結成 ④主席公選闘争と教公二法阻止闘争 ⑤ベトナム景気と全軍労の結成 ⑥日米への留学と集団就職 ⑦沖縄返還をめぐる日米協議の始まり
	4	基地の街の光と影	①基地の街の背景 ②アーニーパイル国際劇場 ③スーベニアショップとテラー ④金城商店とAサインパー ⑤B-52とパラシュート ⑥毒ガス移送とコザ騒動 ⑦映像コーナー
3. ヤマト世 —復帰後の沖縄—	1	「復帰」とは何だったのか	①沖縄返還協定（核抜き・本土並み） ②復帰の措置に関する建議書 ③1972年5月15日 ④縮小する首都圏の米軍基地と減らない沖縄の米軍基地 ⑤日本政府の沖縄振興策 ⑥復帰三大事業と730交通方法変更 ⑦金武湾闘争
	2	減らない基地負担	①1995年米兵による少女性暴力事件 ②日米地位協定 ③普天間飛行場の返還から辺野古新基地建設へ ④名護市民投票と県民投票 ⑤沖縄大ヘリ墜落事件等・不時着と落下物事故 ⑥オスプレイ配備 ⑦米軍基地による環境問題（PFOS・PFAS）
	3	軍隊と性暴力	①沖縄民政府と慰安施設設置問題 ②ベトナム戦争と性暴力・殺人事件 ③平等の新民法の施行（憲法は適用されず） ④1995年米兵による少女性暴力事件で発起した県民大会の様子

		⑤強姦救援センター・沖縄「REICO（レイコ）」
4	軍備強化される基地の島	①南西諸島への自衛隊配備 ②基地経済と基地跡地利用 ③新しい万国津梁（地域外交等の取組）

2 子ども・プロセス展示室（情報ライブラリー含む）（1階）

※子ども・プロセス展示室と情報ライブラリーを一体的に検討するため情報ライブラリーも本項に含む。

（1）全体構成について

①全体構成の考え方

- ・同展示室の展示は、老朽化が進行しているとともに、開館以降大きく変化した世界各国の状況、社会情勢に対応できておらず、全面的に更新することを検討する。
- ・世界の戦争・紛争、国際理解、いじめなどの人権問題、環境問題について、知り、考え、自分なりに意見を出すプロセスを実践するという現在のコンセプトを継承するとともに、基本構想に基づき新たなコーナーを設定し、全体構成を検討する。
- ・1階と2階の展示室、「平和の礎」を往還する学びの空間として捉えて、相互に関連付けることにより平和学習の場としての機能を充実させる。
- ・特に1階は、若い世代や親子連れに親しみやすいスペースを作り、自分事として学び合うことができる展示を目指す。

②各コーナーの設定と内容

同展示室を構成するコーナーの設定と内容は次のとおりとする。

ア 「平和の礎」を考えるコーナー

- ・同展示室と「平和の礎」との結びつきを意識し、「平和の礎」と本資料館を往還する学びの空間として一体的に関連付けていくことを目指す。「平和の礎」の建設意義や基本理念、本資料館との関係性、役割等を確認した上で、相応しい展示内容等を検討する。
- ・「平和の礎」について、ここに込められている“沖縄のこころ”、その理念の正しい理解を、次世代をはじめ幅広い層へと確実に継承していくことを目指し、「戦没者の追悼と平和祈念」「戦争体験の教訓の継承」「安らぎと学びの場」という「平和の礎」の基本理念を明確に理解できるような展示を検討する。
- ・「平和の礎」の刻銘者及びその家族、あるいは関係する人々を取り上げ、戦前から戦中、場合によっては戦後までの足跡を辿る展示を展開する。実在した一人一人に焦点を当てることで、来館者が自分事に置き換えて戦争の事実を受け止め、考える機会を提供する。
- ・戦争の恐ろしさ、不条理さを物語る多様な事実を紹介するために、多くの刻銘者

を取り上げることを目指し、展示を定期的に更新していくことを検討する。

- ・デジタルディスプレイなどの先端技術を導入するなど、来館者の興味・関心を引き出す展示手法を検討するとともに、定期的に展示変更が可能となる展示手法についても検討する。

イ 現在の戦争や平和について考えるコーナー

- ・世界では、今もなお戦争・紛争が続いており、多くの命が失われ続けている。ここでは、その時々戦争・紛争について学び、考えるための展示を行う。
- ・戦争・紛争等の直接的暴力だけでなく、貧困や飢餓、ジェンダーの問題などの構造的暴力や基地の集中がもたらす問題、環境問題等についても取り上げること検討する。
- ・足元の平和に関する問題から、「平和とは何か」「人権とは何か」を問いかけ、一人一人が主体的に平和創造について考え、学べる場を提供することを目指す。
- ・“戦争と平和”の問題のみに着目するのではなく、平和を創造するために活動している人や団体の取り組みを紹介し、国内外の平和創造活動の息づかいを感じてもらい、平和を創造する活動の契機となるような場を設けることを検討する。
- ・平和発信の拠点施設として、国内外の平和博物館及び関連施設と連携した情報発信方法等を検討する。

ウ 企画展示コーナー

- ・同展示室では、開館以降、沖縄戦や国際理解、人権を考える企画展示を数多く開催してきた。この活動を継続し、さらに発展させていくことを目指し、企画展示コーナーを継承・設置することとする。
- ・子どものための「ひろば・ゆいまーる」は、これまで、展示室の奥に位置しており、来館者に気づいてもらいにくい状況にあった。このため、展示更新においては、展示面積を確保しつつ、多くの来館者を惹きつけやすい、動線沿いに配置するなど視認性の高い場所に設置する方向性で検討する。

エ 学びとふれあいコーナー

- ・子ども連れの家族や、近隣の子どもたちが、くつろぎながら、遊び、学べる場、親子や友達同士の語り合い、学び合いを育む場を設けることを検討する。
- ・沖縄戦をはじめ、世界の戦争・紛争、国際理解、いじめなどの人権問題、環境問題等について、見て、触って、考えることができる展示や学習ツールを整備し、幅広い年齢層の来館者が楽しみながら気づきや学びを得ることができる場として充実させる。
- ・沖縄戦や戦争と平和に関する子ども向けの絵本などの図書を設置し、読み聞かせに活用してもらったり、子どもたちに気軽に手に取ってもらえるような環境づくりを検討する。
- ・来館者の展示を観覧した感想を紹介するとともに、戦争と平和の問題について、

自分なりに考えて意見を出すプロセスを実践するというコンセプトを踏まえ、一人一人が自分なりの意見や思いを何らかのかたちで残していける機能、それらを多くの人々と共有できる機能を併設することも検討する。

オ 情報ライブラリー

- ・既存の機能を継承しつつ、書籍や映像機器などの更なる充実を図る。
- ・平和学習や調査・研究を支援する開かれたライブラリーとして、沖縄戦をはじめ、戦争と平和に係る図書を収集・保管・整理し、幅広い層の人々の利用に供する。
- ・学生等が常設展示の理解を深めるため、また、学校教諭や平和ガイドなどが平和学習を進めるためのノウハウや平和学習のために必要な教材や資料を入手することができるよう、ワークシート等の参考資料の提供や相談に対応する。
- ・観覧動線や書架・学習スペース等の配置などを見直し、来館者が気軽に利用でき、ゆっくりと腰をかけ、研究や学習に集中できるような空間づくりを検討する。
- ・証言映像コーナーについて、視聴空間のあり方や映像機器の更新・増設などを検討し、周囲への音漏れの改善とともに、2階常設展示室の第4室における、戦争体験者の証言集や証言映像を、無料で時間をかけて視聴できるスペースとしてより一層の充実を図る。
- ・証言映像コーナーの映像ソフトの充実を目指し、2022（令和4）年度に収録した「米国統治下の証言」についても視聴可能となるよう検討し、字幕や証言に出てくる用語の解説、場所を示した地図などの追加も検討する。
- ・日本語を母語としない人向けの多言語サービスや、障がいのある来館者などの多様なニーズに対応した機能整備や空間づくりに配慮し、多様な人々に開かれた場として充実させる。

③今後の主な検討課題

- ・「平和の礎」の展示については、基本理念等がどのように継承されているかを確認し、具体的な展示内容等を検討する。
- ・国内外の平和博物館及び関連施設との連携のあり方を検討する。
- ・展示替え等を含めた運営のあり方を検討する。

（２）展示でとりあげる項目

※ここに示す展示項目等については、設計時に追加、削除、再編、組み換え等の必要性をさらに検討することとする。

大項目		中項目	展示内容の概略
１．「平和の礎」を考えるコーナー	1	「平和の礎」を考える	①導入—沖縄戦の概要 ②設立の趣旨、基本理念、デザインコンセプト ③刻銘者と刻銘されていない人々
	2	刻銘者とライフストーリー	①礎に名前を刻まれた人たち、及びその家族・関わりのある人々が体験したことや辿ってきた人生（事例）
２．現在の戦争や平和について考えるコーナー	1	今の沖縄・日本は平和か	①今の沖縄・日本は平和か ②平和のために軍事力や基地は必要か ③貧困やいじめ、ジェンダーなどの構造的暴力・差別
	2	世界ではなにが	①今日の戦争・紛争と子どもたち ②地雷や不発弾、核実験など兵器による影響 ③先進国と開発途上国の経済格差やそれに伴う平和問題 ④平和に関わる民族問題や宗教問題 ⑤平和と環境問題
	3	平和を考える	①平和活動を行っている団体について ②平和活動や人権問題に取り組む人々 ③国内外の平和博物館及び関連施設
３．企画展示コーナー	1	企画展示コーナー	①子ども対象の沖縄戦や人権問題、国際理解をテーマとした企画展
４．学びとふれあいコーナー	1	平和学習やコミュニケーションを醸成するコーナー	①多様な国々・世界の子どもたち ②沖縄の戦争遺跡や世界の戦争・紛争のマップ ③平和を考える絵本 ④来館者のふれあい（メッセージ等）
５．情報ライブラリー	1	情報ライブラリー	①書籍の充実 ②利用しやすい書架の配列 ③書庫の充実 ④学習スペースの充実
	2	証言映像ブース	①映像機器の更新

第2章 八重山平和祈念館（分館）

1 展示更新の全体構成について

（1）展示更新の方向性

①沖縄戦に至るまでの経緯を伝える展示を追加

- ・現展示は、米軍上陸から始まっているが、沖縄県平和祈念資料館運営協議会八重山部会委員からの「沖縄戦に至るまでの経緯の説明がない」という指摘を踏まえ、それ以前の沖縄戦に至るまでの経緯について分かりやすく伝える展示を追加する。
- ・沖縄戦に至るまでの経緯を伝えるにあたっては、近代の前史として、増収をもくろむ首里王府により重い人頭税が課されたことや、八重山を大津波が襲い、石垣島で人口の半分近く、八重山全体で3割以上が犠牲になったこと、耕地増大を図るために住民たちのマラリア有病地への強制移住が行われたことなどに触れ、近代を迎える八重山がどういう状況にあったのかを物語るところから始めるものとする。
- ・その後琉球併合が断行され、沖縄県が誕生し、帝国主義の道を歩み始めた日本に組み込まれていく流れと、沖縄戦に至るまでの歴史的経緯を八重山の視点から描き出す方向性で検討し、戦時体制下で八重山の人々がどのように死へと追いやられていったのかを浮き彫りにすることを目指す。

②八重山地域及び出身者の証言資料を活用した展示導入

- ・戦中、八重山で何が起こり、人々はどのような体験をしたのかをリアルに伝えることができる証言資料を活用した展示を積極的に導入し、八重山で起きた戦争の実態を、自分とは無関係の遠い出来事としてではなく、できるだけ自分に引き寄せて考えてもらうことを促す展示として充実させる。
- ・取り上げる証言の種類は、「戦争マラリア」に関するものに限定するのではなく、八重山地域及び出身者の多様な戦争体験を物語る証言を取り上げるとともに、八重山地域外での戦争体験についても取り上げることを検討し、証言を通じて沖縄戦の多様な側面を伝えることを目指す。

③八重山における「戦争マラリア」を伝える展示を再編し、訴求力を強化

- ・「戦争マラリア」とは何か、どういう経緯で起こったのかを、当時日本軍が何を意図し、どういう軍命を出したのか、その下で官吏がどのような動きをしたのかなどを明らかにするとともに、軍が支配する戦時体制のもとで多くの犠牲者を出した「戦争マラリア」が発生した構図を浮き彫りにする。
- ・加えて、「戦争マラリア」によって八重山の人々はどのような状況に置かれ、どのような体験を強いられたのかについて、より鮮明に描き出すとともに「戦争マラリア」によって家族を失ってしまった戦争孤児の問題にも触れることを検討する。
- ・実物資料、証言、絵、ジオラマ等を有機的に結びつけて、八重山における「戦争マラリア」の実情について鮮明に描き出す展示の実現を目指す。

④八重山の各島々の沖縄戦の状況について伝える展示を追加

- ・石垣島だけでなく、西表島、波照間島、竹富島、小浜島、鳩間島、黒島、新城島、与那国島についても戦争の実態を取り上げ、各島によって異なる、沖縄戦時の状況について伝える展示を追加することを検討する。
- ・軍が支配する体制の中で軍・官・民がどういう関係性にあったのか、住民たちがどのような状況に置かれ、その中でどう生き、どう苦悩したのかについても描き出し、戦時体制とはどういうものなのかを考える展示とすることを検討する。
- ・沖縄戦時の戦争の状況だけでなく、「戦争マラリア」があったとされる島々については、軍命によって強制的に疎開させられていく状況や、疎開させられた場所、「戦争マラリア」による住民の被害状況についても伝えるとともに、陳情によって強制避難を免れた竹富島の稀有な事例についても触れることを検討する。
- ・軍命によって八重山に配備されたことにより、多くの日本軍兵士もまた、マラリアの犠牲者となったことについても触れることを検討する。

⑤八重山の戦後史を伝える展示を追加

- ・八重山の戦後史について伝える展示を追加・充実させる。
- ・戦後のマラリア防遏の取り組みについては、現状の展示では、琉球列島米国民政府が招請したチャールズ・M・ウイラー博士によるマラリア撲滅を達成した「ウイラープラン」のみを紹介しているが、展示更新にあたっては、ここに至るまでに、戦後直後の米軍主導によるマラリア防遏の取り組みや大濱信賢によるマラリア撲滅対策があったこと、引揚者の帰還や米軍による土地接収に伴う移民により人口が増加し、鎮圧されかけていたマラリアが再燃したこと等の展示の追加を検討する。
- ・マラリア撲滅に向けた取り組みだけでなく、戦後の混乱した状況とともに、八重山復興博覧会の開催、道路開通など、復興の歩みについても伝えることを検討する。

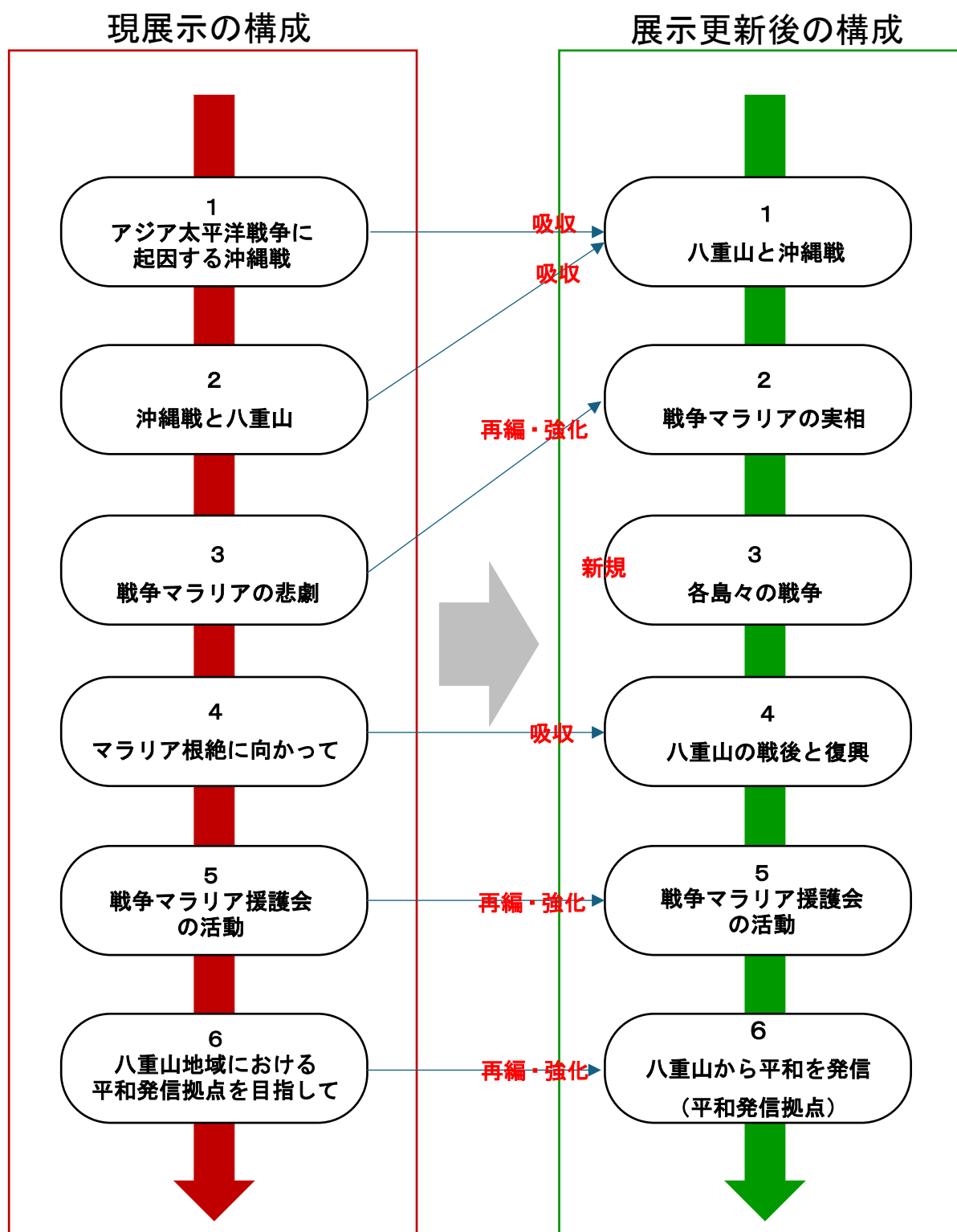
⑥“沖縄のこころ”を理念とした八重山から平和を発信する展示を設置

- ・展示の締めくくりとして、「八重山から平和を発信する」をテーマにした展示を設けることを検討する。
- ・人気を集める観光地として娯楽や癒しを求める多くの人々で賑わうようになった八重山において、現在もなお、沖縄戦及び「戦争マラリア」という、過酷な体験の記憶を抱えながら、平和を願う心、失われた命に対する哀悼の想いを込めた諸活動が行われていることを紹介する。その一方で、台湾有事への懸念などを背景に、国境地帯の防備を固めるという主旨で、八重山に自衛隊配備が進められている状況があることなどについても伝えることを検討する。
- ・主に台湾などの近隣諸地域との交流といった、境界の地域だからこそできる平和構築の在り方について伝えることを検討する。
- ・沖縄戦、「戦争マラリア」という過酷な体験をした八重山からの、ゆずることのできない平和を願う心を伝えることを目指す。

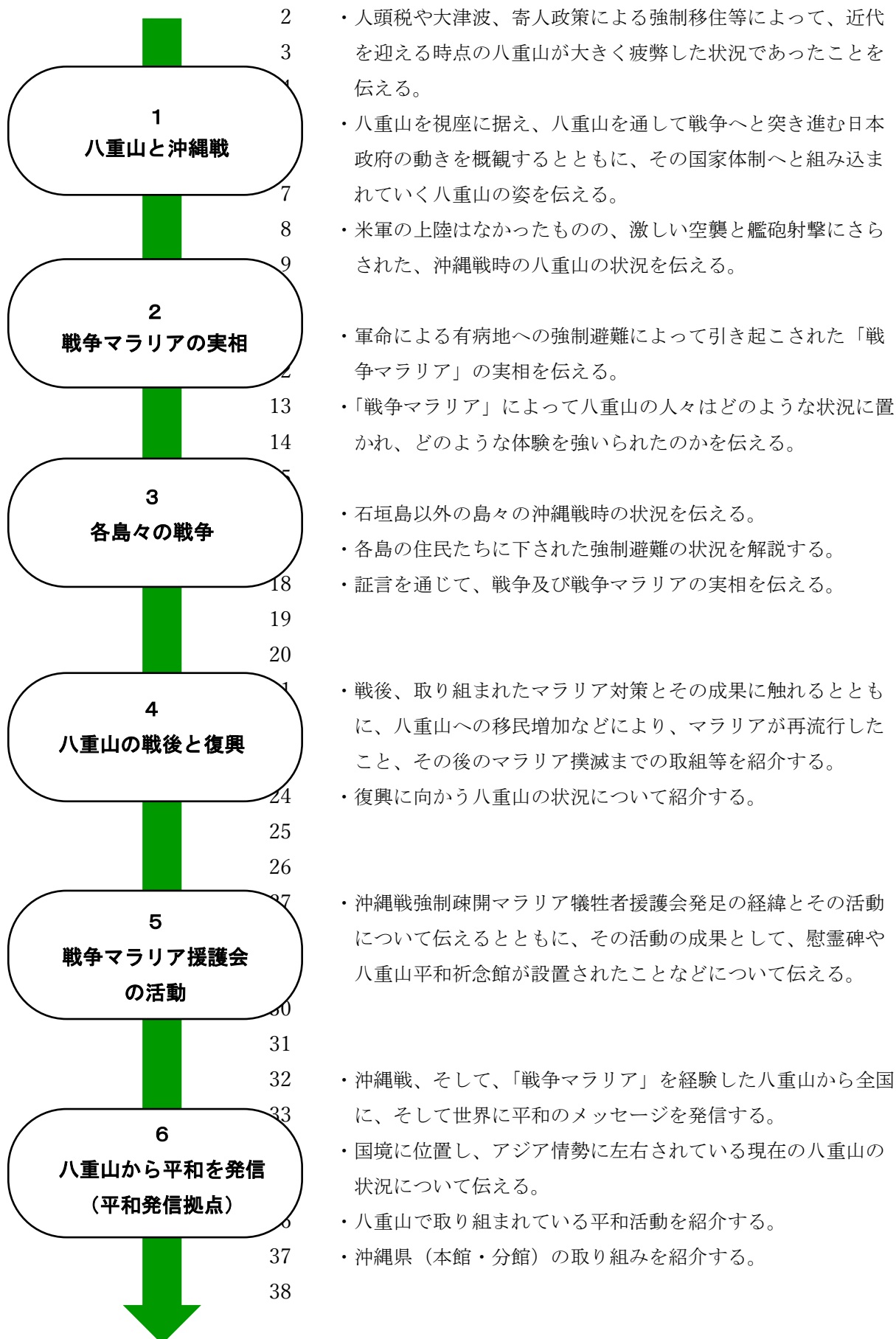
(2) 展示の全体構成について

① 現展示の構成と展示更新後の展示の構成

前項の展示更新の方向性を踏まえ、展示更新後の構成は以下を基本とする。



1 (3) 各展示コーナーのねらい



（４）今後の主な検討課題

- ・年表の内容や設置場所などのあり方を検討する。
- ・廊下など展示室以外のスペース、空間の活用を検討する。

（５）展示でとりあげる項目

※ここに示す展示項目等については、設計時に追加、削除、再編、組み換え等の必要性をさらに検討することとする。

大項目	中項目	展示内容の概略
1. 八重山と沖縄戦	1 近代の八重山	①ヤキーと称された八重山の風土病「マラリア」 ②人頭税の重圧 ③琉球王国の耕地拡大を意図した寄人政策によるマラリア有病地への強制移住 ④甚大な被害をもたらした「明和の大津波」
	2 列強国をめざす日本と八重山	①牡丹社事件と台湾出兵 ②日本の国境となった八重山諸島 ③日の丸国旗下賜 ④八重山諸島に押し寄せた琉球併合 ⑤清国と日本政府の間で交わされた分島条約
	3 日清・日露・第一次世界大戦と八重山	①徴兵令の発布 ②日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦 ③台湾の植民地化 ④帝国主義と当時の植民地地図
	4 近代国家とマラリア	①笹森儀助の南西諸島調査により明らかにされたマラリアと人頭税による窮状 ②衛生的観点から確認されたマラリア防遏の必要性 ③マラリア罹患のメカニズム ④人頭税の廃止（1903 年） ⑤マラリア防遏問題に関する群民大会 ⑥ソテツ地獄とマラリア地獄 ⑦軍事費とマラリア対策費
	5 戦時体制と教育	①御真影、教育勅語の下賜 ②弾圧される日本教育労働組合八重山支部 ③兵士養成所となった学校 ④八重山から中国大陆へ ⑤鳥居設置の奨励と戦争
	6 アジア・太平洋戦争と八重山ーすべては戦争のためにー	①国民学校と「国体護持」 ②翼賛青年連盟と那国支部・大政翼賛会八重山支部の誕生 ③大舩松市顕彰運動 ④船浮臨時要塞と第 32 軍

			⑤陸軍中野学校出身者と戦争 ⑥飛行場建設と住民 ⑦朝鮮人軍夫 ⑧慰安婦問題 ⑨台湾、九州への疎開 ⑩少年志願兵と女子挺身隊 ⑪食糧供出 ⑫八重山の学徒（鉄血勤皇隊、女子学徒看護隊など） ⑬沖縄戦特攻作戦第1陣 石垣島から出陣
	7	空襲と艦砲	①本島への米軍上陸 ②「捨て石作戦」としての沖縄戦 ③激烈を極める空襲 ④みのかさ部隊 ⑤船舶撃沈事件 ⑥米軍捕虜虐殺事件 ⑦空襲と御真影・教育勅語
2. 戦争マラリアの実相	1	「県民指導措置八重山郡細部計画」と「戦争マラリア」	①県民指導措置八重山郡細部計画 ②マラリア有病地への強制避難命令 ③「戦争マラリア」が発生した島々 ④波照間島住民と忘勿石 ⑤軍の作戦や計画・各島における軍命
	2	八重山での強制避難 ー軍命でマラリア有病地帯へー	①強制避難の概況 ②強制避難命令のねらい ③兵士たちのマラリア犠牲 ④「戦争マラリア」と戦争孤児
	3	避難地生活の実相	①避難地での食糧事情と居住環境 ②「戦争マラリア」による犠牲者 ③看病、埋葬の状況
3. 各島々の戦争	1	各島々の戦争の様子	①漁船撃沈等周辺海域の状況 ②各島の戦争の状況 ③各島の軍隊配備状況 ④離島残置謀者と八重山 ⑤各島の強制避難の状況 ⑥強制避難を免れた島・竹富島 ⑦各島の戦争及び「戦争マラリア」による犠牲者数
	2	証言／石垣島	①各島々の証言
	3	証言／西表島	
	4	証言／波照間島	
	5	証言／竹富島	
	6	証言／小浜島	
	7	証言／鳩間島	
	8	証言／黒島	
	9	証言／新城島	
	10	証言／与那国島	
4. 八重山の戦後と復興	1	マラリア撲滅と住民	①戦後直後のマラリア対策とその成果 ②大濱信賢と「マラリア撲滅に関する取締規則」

			③DDT と抗マラリア薬「アテブリン」 ④藪の伐採、水道の浚渫 ⑤米軍基地建設等に伴う移民の増加、森林開拓等によるマラリア再燃 ⑥WHO によるマラリア根絶計画の公表 ⑦ウイラープランの展開
	2	八重山への移民と復興	①沖縄本島や宮古島等からの移民の実態 ②八重山から沖縄本島、本土への出稼ぎ・移住 ③若者の流出と移住者 ④密貿易と復興 ⑤八重山自治政府 ⑥八重山文化ルネッサンス ⑦八重山復興博覧会（昭和 25 年） ⑧道路開通（オグデン道路など） ⑨琉米文化会館 ⑩とうばら一ま大会（昭和 22 年から）
5. 戦争マラリア援護会の活動	1	沖縄戦強制疎開マラリア犠牲者援護会の発足とその活動	①総決起大会 ②陳情活動 ③追悼式の開催 ④篠原武夫教授が援護会活動を始めるとききっかけとなった『平和への証言－沖縄県立平和記念資料館ガイドブック』
	2	慰藉（いしゃ）事業の概要	①八重山戦争マラリア犠牲者慰霊之碑の建立 ②「八重山平和祈念館」の設立 ③『悲しみをのり越えて－八重山戦争マラリア犠牲者追悼平和祈念誌－』の発行
6. 八重山から平和を発信（平和発信拠点）	1	昔も今も国境の島の苦しさ	①尖閣諸島をめぐる中国の動き、台湾有事への懸念 ②八重山への自衛隊配備 ③「沖縄戦の教訓」はどこへ
	2	八重山の平和を願う心とその活動	①多様な平和創造活動の推進 ②八重山と台湾の交流 ③「平和の礎」へ刻銘された台湾の人々 ④慰霊碑の建立 ⑤元ハンセン病の方々への対策 ⑥「世界平和の鐘」 ⑦「石垣市非核平和都市宣言」 ⑧憲法 9 条の碑

1
2
3

第3章 全館に共通する展示更新に関する事項

1 解説ツールに係る更新

(1) 更新のねらいと方向性

①研究成果の蓄積を踏まえた表記内容の見直し・更新

開館から25年の間に明らかになった歴史的事実や、『沖縄県史』をはじめとする沖縄戦と女性史を含む沖縄の近現代史に関する最新の調査・研究成果を踏まえて現在の解説内容を見直すとともに、必要な情報の追加、表記や用語等の統一等を図ることで、沖縄戦に関する正しい情報を来館者に提供する。

②すべての来館者にとってアクセシビリティの高い解説の実現

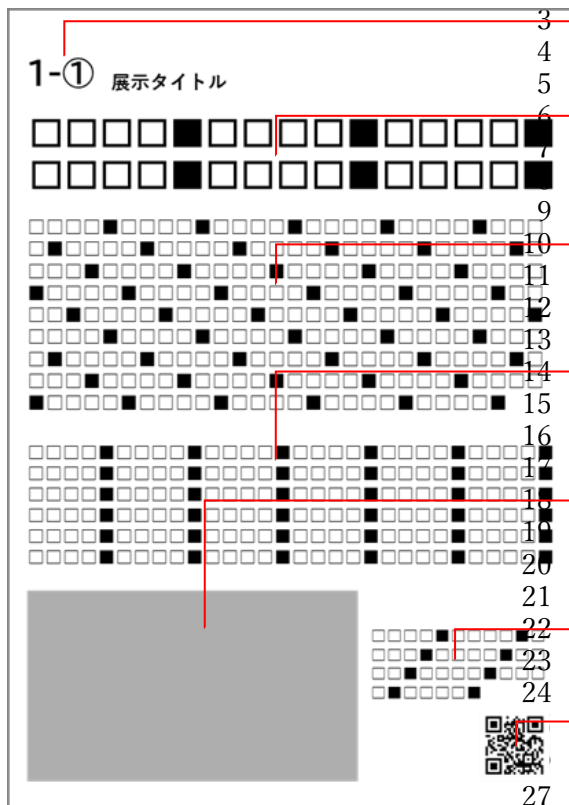
基本構想に基づきSDGsの理念に配慮した展示更新とするため、解説文章については、専門用語を多用せず、簡潔で分かりやすい表現とすることを基本とする。加えて、英語等主要言語による翻訳、視覚的に理解を補助するイラストや写真、図表の活用、動画解説でのテロップ表記や手話通訳、文字サイズや文字色のコントラストへの配慮など、全館でアクセシビリティの高い解説を目指す。

③基礎知識をあまり持っていない層、より専門的に学びたい層の双方に対応

基本構想に基づき平和について学習する場の充実を図るため、最新の研究成果に基づいた沖縄戦の基礎的な内容を提供する解説と、より深く詳細な情報を提供する専門解説を用意するなど、多層的な情報提供を行う。

1 【展開イメージ】

2 ● 解説パネルの基本的な構成について



展示番号

展示の順番を番号等により表示

要点解説（キャッチコピー）

30 文字程度の分かりやすい文章で、展示の訴求ポイントを表現

詳細解説（日本語）

200～300 文字程度の文章で、展示の詳細な情報を解説

外国語解説（英語）

要点解説及び詳細解説の英語翻訳

写真・図版等

理解を補助するイラストや写真、チャート図等を積極的に活用

キャプション

写真・図版等の内容や背景等を解説

二次元バーコード

さらに詳細な解説や関連する施設、情報等に誘導

● フォントや色づかいについて

ユニバーサルデザインの観点から最適な文字サイズやフォント、色づかいを採用する。文字サイズは10mm（28pt）以上を基本に、解説パネルと来館者の距離、展示空間の明るさ等も考慮の上、最適なサイズを決定する。またフォントはユニバーサルデザインのコンセプトに基づいて作成されたUDフォントを採用、さらに色覚多様性に配慮した、誰もが認識しやすい配色デザインを取り入れる。

○ 視認しやすい

✕ 視認しにくい

フォント

ぽもな

UDフォント

ぽもな

非UDフォント

色づかい

おきなわ

黒地に白文字

おきなわ

灰地に白文字
地と文字の明暗が乏しい

おきなわ

ベージュ地に黒文字

おきなわ

赤地に緑文字

● 文章について

解説パネルの文字数は極力200～300文字程度に留めるとともに、専門用語の多用を控えた文章表現を基本とする。加えて、最新の研究成果に基づいた用字用語、表記ゆれの統一を図り、全館で統一感のある読みやすい文章を目指す。

さらに詳細な情報を提供するための解説シートや携帯端末のアプリケーションの導入も検討する。

● デジタル解説装置の導入について

他施設での活用が進むデジタル解説装置やアプリには、タッチスクリーン等により、来館者一人一人が自分のペースで理解を深められたり、写真や動画を含めた多層的な情報を提供できるといった利点がある。耐久性やメンテナンス性等の課題を十分に検証した上で導入を検討する。



来館者の学習ニーズに合わせて、館内をナビゲートするタブレット端末



多言語による字幕解説や手話動画による解説

2 展示ケースの更新

(1) 更新のねらいと方向性

①大切な資料を守るために必要な機能を整備

展示ケースには、物理的な損傷や温湿度、紫外線、虫害等の環境要因から資料を守る機能、盗難や破壊、地震等の災害から資料を守る機能等が求められる。特に現状で不具合が発生するなど、必要な機能を満たしていない展示ケースについては、今回の展示更新において改修を行う。

②資料の入れ替えがしやすい操作性も重視

展示ケースの改修にあたっては、開閉のしやすさも重視することで、資料の設置や移動、日常的なメンテナンス等が容易で、かつ資料の入れ替え作業時の安全性、快適性を備えたケース設計を行う。

③誰にとっても資料が見やすい鑑賞性に配慮

現状では子どもたちや車椅子利用者等が資料を鑑賞しづらい展示ケースがあり、今回の展示更新により改善が求められる。展示ケースのガラス面の高さや幅、照明の配置等の工夫により、誰もが鑑賞しやすい環境を整備する。

3 今後の主な検討課題

- ・来館者のアクセシビリティを高める解説計画（各種案内サインの設定、大項目パネルや中項目パネルの内容の整理、解説文章の最適な文字サイズや文字量等）を検討する。
- ・子どもや車椅子利用者等が展示鑑賞しやすいようパネル設置の高さや展示資料の配置、通路幅等を検討する。
- ・多言語解説における外国語の選定や手話解説の導入等を検討する。
- ・展示資料に適した展示環境（温度、湿度、照度等）を検討する。